

歴 代 か わ ら 版 解 説

1996年10月号

九月特別本集会報告

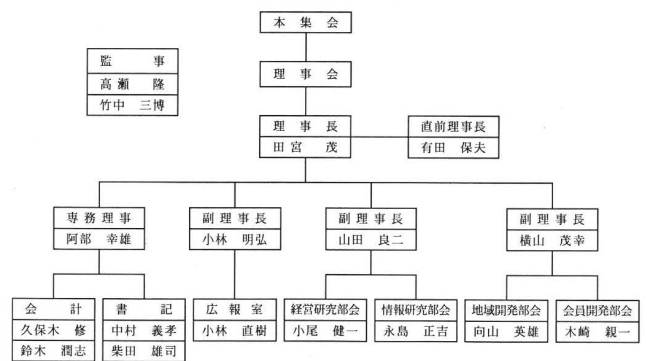
去る九月八日午後七時、昭島市公民館に於いて、平成七年度九月特別本集会が開催されました。本集会議題として、平成八年度理事、承認の件、並びに各理事、監事承認の件が掲げられ採決の結果、満場一致により無事承認されました。『次年度田宮理事長、来年一年頑張ってください。』

本集会第一部においては、くじら祭報告として各部会、室会よりくじら祭内容報告、また反省点報告等があった後、くじら祭を担当されていた高瀬担当副理事長の総括挨拶で最後を締めくくりました。

本年度もあつかわを残り、各部会、室会も追い込みをかける中、本特別本集会の承認により次年度体制での活動も本格的に始まります。各理事、また各会員の皆さん、体調には充分注意して平成七年度のA I J活動、一〇〇%燃焼でガンバリましょう。尚、一〇〇%出席もお忘れなく。



平成8年度 昭島青年経営者クラブ組織表



卒業にあたって

横手 秀敏
いよいよ、瓦版の紙面にてお別れのご挨拶をさせて頂く時が参りました。

想えば平成二年十一月秋季セミナーの会場で認証状をいただいた以来、今日までの五年間は「あ」と言う間でしたが「経験」と言ふ豪華な料理を噛み締めそして、味わう事ができましたこと、感謝に絶えません。

初めて配属された部会が清水輝さん部長の会員開発部会でした。入会した際の緊張感と慣れないA I Jで登会拒否症になりそうとき、輝さんの助言でA I Jにぶつかる決心がつかしました。大変感謝しております。

二年目は、あの森高憲部長率いる情報研究部会でした。部員にも個性頑固な方がいまして大変でしたし、本会計も担当させられ忙しい一年でしたが、A I Jに対する考え方は大変、勉強になりました。ですが、この時の担当副理事

長は半年も休会しておきながら翌年とんでない仕事（すばらしい体験）を振り分けたのです。入会してわずか三年目の私に専務と言う大役を命じたのです。この無謀とも言える人選に驚き、困惑しているうちに池田さんは兄の許可を得てしまいました。兄は弱みがあったのでしよう。

私も一人を相手に断わりきれず、お受けしてまいりました。それから一年五ヶ月は、モー、ター、イ、ヘン。冷静な会員からして見れば、波乱に富んだ一年でしょうが、私には、本集資料の作成、新春本集会から卒業式、サナナパーティーまで、生涯忘れる事のない、すばらしい年でした。

四年目、金森部長の経営研究部会では一員として春季セミナーにて劉羽原子力発電所、集計機を持ち込んだの六月担当例会、バレル担当のくじら祭とアイデア豊かな部長のもと、楽しい一年でした。



卒業年度の今年は、有田理事長に拾ったもらい、橋本会員開発部会と真壁地域開発部会の二部会を担当する副理事長を仰せつかりました。両部長には何となく迷惑をお掛けしたことを存じますが、オビニョンとしてのリーダー学はいい勉強になりました。文才の無い私ですから、感謝の気持ちをうまく表現できませんでしたが、同じ時代を共に歩んで下さいました会員の皆様と、何時も適切なアドバイスをして下さいました諸先輩、そして最後に、ハラハラしながら見ていただけの兄に、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。



かわら版解説「卒業にあたって」について

広報室 編集長 服部 尋

『卒業にあたって』をご寄稿された横手先輩の記事を拝見し、まず最初に思ったことが『平成二年十一月認証』ということでした。

実は、今年のかわら版の年間テーマである『過去かわら版』の題目とする記事を選んでいるのは編集長である私であり、選定はそれなりに昔のものを選んでいきます。それでも、『平成』というフレーズが出てくるということに驚きました。まずは平成という時代の長さ。そしてA I Jの歴史の長さです。A I Jが活動を続けてきた中で、様々な事柄が発生し、数々のドラマがあったのだろうと推察しています。

今回紹介させていただきました横手先輩のご卒業の記事も、当然その中の一つであり、ご本人はもちろん、A I Jという組織にとってもかけがえのない事柄なのだと思います。そして、その活動の一部を広報室編集長として活動できたことを感謝する次第です。

かわら版解説「九月特別本集会報告」について

経営研究部会 副部長 安藤 千春

一九九六年の九月特別本集会の記事を読み、はじめ思ったのはその頃自分は何をしていたのかなと、いうことです。今から二十五年前、まだ私は十四歳でした。

自分がまさかこのような若手経営者の会に入会してるなんて当時の自分では想像すらしていなかったでしょう。記事当時もですが、さらにもっと前から、すでに今のようA I J活動をしている先輩方がいたかと思うと、歴史や重みを感じると共に今自分がこの会の一員でいられる事をあらためて光栄に感じます。

A I Jの歴史の中で今と昔の違い、変わらずに受け継がれるものなど自分なりに学び、理解していくことで自分自身の成長にも繋げる努力をしていこうと思います。先輩方がしていた効率化を意識しながら、多くの意見を取り入れる懐の深さを大切することを、今後の活動目標にできたらと思います。